

# 前立腺生検を受けられる患者さんへ

秋田大学医学部泌尿器科

前立腺は、膀胱からの尿の出口を取り囲むように存在する男性生殖器の一つです。最近わが国では前立腺の疾患が増加しています。血液検査でP S A（前立腺特異抗原）という物質が高い値の時は肥大症や炎症以外に前立腺の癌が疑われます。触診（肛門から指を入れ前立腺を調べる診察）や超音波検査なども前立腺の癌を診断する手段です。しかしいずれの検査も、疑いにとどまるだけで確定には至りません。前立腺癌の診断を確定する唯一の方法は、前立腺の細胞を採取することです。それが前立腺生検です。

## 【前立腺生検の方法】

肛門から超音波検査の機械をいれ、まず前立腺の内部の様子を調べます。その後、直腸内腔からまたは会陰部から直径約1.5mmの針を前立腺へ向かって6～16箇所刺し前立腺の組織を採取します。検査は約30分で終了します。直腸内腔から採取する場合、通常は麻酔の必要はありませんが、痛みが強い場合には仙骨麻酔が必要になることがあります。会陰部から採取する場合は、全身麻酔または腰椎麻酔下に行います。

## 【前立腺生検の合併症】

### 血尿

前立腺は膀胱の出口にあるため、検査後に血尿となることがあります。通常は2、3日で肉眼的には消失します。しかし血尿が強い場合は、入院または入院期間を延長して対処したり、輸血が必要となる場合があります。また狭心症、脳梗塞などのため抗凝固剤（血液を固まりにくくするお薬）が投与されている場合は、薬の内服を7日間以上中止する必要があります。受診時には必ず現在飲んでいる薬を持参してください。抗凝固薬、抗血小板薬としてよく使用されるのは、バファリン、パナルジン、パナピジン、ワーファリン、エパデールなどです。これらの薬を内服されている方は担当医に申し出てください。

### 血便

生検は直腸から前立腺に向かって針を刺しますので、検査後は直腸粘膜から多少の出血がみられます。検査後に5-10分程度、針の刺し口の周辺を指などで圧迫し、超音波でも止血したことを確認した上で検査を終了します。しかし、直腸からの出血が強い場合には入院または入院期間を延長して、止血処置や点滴、輸血が必要となる場合があります。

### 骨盤内出血

前立腺癌は前立腺の外側に発生しやすいことから、生検は主に前立腺の外側をねらって組織を採取します。検査中は超音波で針を刺す部位を確認しながら行いますが、まれに前立腺の周囲に出血し血腫（血液の固まり）をつくる場合があります。少量であれば全く問題はありませんが、出血の量が多い時には点滴や輸血が必要となる場合があります。

### 発熱

生検の時は大便の通り道から針を刺しますので細菌を前立腺へ押し込み前立腺炎を引き起こす危険があります。そのため検査から数日間は点滴や経口で抗生物質を投与します。発熱した場合は、入院または入院期間を延長して処置を行うことがあります。

### 尿道出血・血精液症

検査後下着に血が付いたり、尿の出始めに血が出たりすることがあります。また精液に血が混じり、赤色から茶褐色になることがあります。これらの症状がしばらく続くこともありますが、通常健康への影響はありません。

### 【生検後の注意点】

生検によって前立腺は炎症を起こします。そのため以下のことを守ってください。

アルコールは1週間控えてください。アルコールは血管を拡張する作用があり前立腺の炎症を助長する事があります。

自転車やバイクも1週間は乗らないでください。機械的に炎症を増悪させることがあります。

長時間（2時間以上）座ったままでいることも好ましくありません。

細菌感染予防のため、4 - 7日間程度、抗生物質を服用していただきます。

### 【生検の結果と陰性の場合の注意点】

生検の結果は2週間前後で判明します。結果については担当医より説明があります。

癌が検出された場合は、病気の進展度（広がり）を検査した上で、最も適当と思われる治療法の相談をご本人、ご家族を交えて行っています。

癌が検出されなかった場合は、ほぼ大丈夫と判断されます。しかし癌が存在しているのに針が当たらなかったり、非常に小さな癌で発見できないこともあります。癌が見つからなかった方でも、定期的（3か月から1年ごと）に血液検査などを受けることをおすすめします。その後もやはり癌の存在が疑われる場合は、再度生検をおすすめする場合があります。

\*\*\*\*\*

私は 年 月 日に予定されている、前立腺生検の必要性和合併症や注意点について下記の医師により説明を受け理解しましたので、その実施に同意します。

年 月 日

患者氏名（自署）

代理人（自署）

（ 続柄 ）

説明者

秋田大学医学部附属病院泌尿器科

医師（自署）